

スルファニル酸,米山薬品工業(株),GC0237,2022年6月14日

安全データシート

改訂日：2022年6月14日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名)

会社名

住所

電話番号

整理番号

スルファニル酸

米山薬品工業株式会社

大阪市中央区道修町2丁目3番11号

(06)6231-3555(大阪・本社)

(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)

(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)

GC0237

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分2A

皮膚感受性：区分1A1B

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）：区分3

水生環境有害性 長期（慢性）：区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

警告

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

水生生物に有害

長期的影響により水生生物に有害

【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。

適切な保護手袋を着用すること。

適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

粉じん、蒸気、スプレー、ヒュームの吸入を避けること。

環境への放出を避けること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

【応急措置】

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名

別名

化学式

化学物質を特定できる一般的な番号

濃度又は濃度範囲（含有率）

官報公示整理番号（化審法/安衛法）

その他

化学物質

スルファニル酸

4-アミノベンゼンスルホン酸

 $\text{NH}_2\text{C}_6\text{H}_4\text{SO}_3\text{H}$

CAS RN: 121-57-3

99%以上

(3)-1971

HSコード: 2921.42

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。

水と石鹼で洗うこと。

眼に入った場合	皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。 口をすすぐ。多量の水を飲ませる。気分が悪い時は医師の診断／手当てを受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 皮膚： 発赤 眼： 発赤、痛み
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 およそ290℃に加熱、燃焼、あるいは強酸との接触により分解し、有毒なヒューム(窒素酸化物、イオウ酸化物)を生じる。強塩基と激しく反応する。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 環境中に放出してはならない。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
環境に対する注意事項	
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
二次災害の防止策	
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体排気)	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 粉じん、蒸気、スプレー、ヒュームの吸入を避けること。 眼に入れないこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 『10. 安定性及び反応性』を参照。
接触回避	
保管	
安全な保管条件	容器を密閉して冷乾所で保管すること。
安全な容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度(出典)	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	取扱いについては、できるだけ密閉化を行うか、局所排気装置を使用する。作業場近くに手洗等の設備を設ける。
保護具	
呼吸用保護具	防塵マスク又は簡易防塵マスクを着用する。
手の保護具	ゴム手袋を着用する。
眼の保護具	ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	作業着を着用する。
特別な注意事項	該当情報なし。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	結晶性粉末
色	白色～うすい紅色(又はうすい褐色)
臭い	わずかに特異臭
融点・凝固点	該当情報なし。
沸点又は初留点及び沸騰範囲	該当情報なし。

燃焼性（固体、気体）	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	>200℃
自然発火温度	>400℃
分解温度	加熱すると分解する。 288℃
pH	2.5（20℃, 10g/L）
粘度（粘性率）	該当情報なし。
溶解度	水：約1%（20℃） エタノール、エーテル：不溶
n-オクタノール/水分配係数	log P = -0.9
蒸気圧	2.02*10 ⁻⁷ mmHg（25℃）
密度及び/又は相対密度	1.485（25℃, 4℃）
相対ガス密度	1.49g/cm ³ 該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性	該当情報なし。
化学的安定性	通常の取扱いにて安定。
危険有害反応可能性	およそ290℃に加熱、燃焼、あるいは強酸との接触により分解し、有毒なヒューム(窒素酸化物、イオウ酸化物)を生じる。強塩基と激しく反応する。
避けるべき条件	290℃に加熱、燃焼
混触危険物質	強酸、強塩基
危険有害な分解生成物	窒素酸化物、イオウ酸化物
11. 有害性情報	
急性毒性	経口：ラット：LD50=12300mg/kg、及び13200mg/kgにより区分外とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、24時間ばく露の結果「slightly irritating」の記述があり、その他に20時間ばく露で「mild rubor」及び「slight rubor」の結果の記述があるためJIS分類基準の区分外（国連分類基準の区分3）とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験において、滴下後24時間の結果「moderately irritating」との記述があり、EU分類ではXi:R36（EU-Annex I）であるため区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器：該当情報なし。 皮膚：モルモットを用いたMaximizationtestにおいて、「sensitizing」との結果が2件、それに加えモルモットを用いた複数の皮膚感作性試験で陽性の結果が得られている。またEU分類ではR43（EU-Annex I）であるため区分1とした。
生殖細胞変異原性	in vivo変異原性試験のデータがなく分類できない。なお、Ames試験（in vitro変異原性試験）は陰性を示している。
発がん性	該当情報なし。
生殖毒性	該当情報なし。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	該当情報なし。
特定標的臓器毒性（反復暴露）	該当情報なし。
誤えん有害性	該当情報なし。
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期（急性）：甲殻類（オオミジンコ）、48時間EC50＝85.66 mg/L 長期（慢性）：該当情報なし。（分類できない）
残留性・分解性	難分解性、BOD：3%
生体蓄積性	該当情報なし。
土壤中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。（GHS分類：分類できない）
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意	
国連番号	—
品名（国連輸送名）	—
国連分類	—
容器等級	—

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送

海上輸送

航空輸送

応急措置指針番号

消防法の規定に従う。

船舶安全法の規定に従う。

航空法の規定に従う。

—

15. 適用法令

化学物質管理促進法（PRTR法）

毒物及び劇物取締法

労働安全衛生法

指定化学物質に該当しない。

毒物及び劇物に該当しない。

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔4 - アミノベンゼンスルホン酸〕〔施行令別表9〕(2025年（令和7年4月1日）以降）

危険性又は有害性を調査すべき物〔4 - アミノベンゼンスルホン酸〕(2025年（令和7年4月1日）以降）

危険物に該当しない。

消防法

16. その他の情報

引用文献

職場の安全サイト（厚生労働省HP）

その他

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。